

2 食事

『疲労をとる』のふたつ目は食事。
「疲労をとることと食べることが関係あるの?」
と思う人もいるかもしれません。
疲労=身体へのダメージと考えれば、その補修として、
食事の面から栄養を摂って対応していかなければいけませんよね。
ここでは、疲労の原因別に食事で改善できる方法を
紹介していきますので、毎日の食生活に
生かしていただければと思います。

講師◎柴崎真木



1 食事で「疲労をとる」とは?

疲れの原因は、①運動による疲労、
②ストレスなどによる疲労、③寒さや暑さなど環境の変化などによる疲労が挙げられます。実際には複雑にこれらが絡み合って疲れが起りますが、スイマーの皆さんの中でも、主な疲労の原因是、練習やトレーニングによる身体のダメージと、緊張や神経の高ぶり、ストレスなどの精神的ダメージが大きいのではないか。ところでは、これらの疲労の原因別に食事で改善できることを紹介していきます。まずは「食事で疲労をとる」ということについて、お話しします。

疲れを回復には、バランスの良い食事を摂ることが基本ですが、疲れているときほど食事がおろそかになります。疲れたな、と感じたら早めに対応することが必要です。

疲れを回復するためには、まずはエネルギーを補給する必要があります。エネルギーは、糖質やタンパク質、脂質などがありますが、特に糖質がエネルギー源となることが多いです。糖質は、運動によって消費されるため、運動後は特にエネルギーを補給する必要があります。また、運動によって筋肉が疲れると、筋肉の細胞膜が壊れ、細胞内に漏出する乳酸が蓄積します。この乳酸が筋肉を疲れさせます。そのため、運動後は筋肉を休息させるだけでなく、適切な食事でエネルギーを補給することで、筋肉の回復を促進することができます。

疲れを回復するためには、まずはエネルギーを補給する必要があります。エネルギーは、糖質やタンパク質、脂質などがありますが、特に糖質がエネルギー源となることが多いです。糖質は、運動によって消費されるため、運動後は特にエネルギーを補給する必要があります。また、運動によって筋肉が疲れると、筋肉の細胞膜が壊れ、細胞内に漏出する乳酸が蓄積します。この乳酸が筋肉を疲れさせます。そのため、運動後は筋肉を休息させるだけでなく、適切な食事でエネルギーを補給することで、筋肉の回復を促進することができます。

2 3つの疲労原因とその対策

原因1

エネルギー不足

エネルギーになる栄養素は糖質です。糖質の中でも、果物やジュースなど砂糖を使った甘いものより、ごはんやパンなど穀類のほうがゆっくり吸収され、エネルギーが長持ちするので疲労回復に向いています。また、糖質をエネルギーに変えるために必要なビタミンB₁や、エネルギーを作るために必要な酸素を運搬する鉄が不足し、貧血になると疲労を感じやすくなります。

原因2

筋疲労

運動によってダメージを受けた筋肉を回復するためにはたんぱく質が必要です。たんぱく質は運動後できるだけ早く摂ると吸収が早いといわれています。たんぱく質が合成するためには、ビタミンB₆が必要です。また、体内に取り込まれた酸素の一部は活性酸素に変わり、筋肉や細胞にダメージを与えます。それらを抑えるための抗酸化成分を摂ることも必要です。

原因3

ストレス疲労

ストレスによってビタミンCが多く消耗します。また、セロトニンという脳内で神経伝達に関わる物質は、別名「幸せホルモン」といわれ、ストレスが大きくなると減少することがわかっています。セロトニンはトリプトファンというアミノ酸から合成されています。そのほか、神経の高ぶりを抑えるGABA(γアミノ酸)やテアニンなども緊張を和らげる働きがあります。

3 原因対策の食材はコレ!

1 エネルギー不足

対応食材

- ・胚芽精米
- ・ライ麦パン
- ・もち
- ・豚肉
- ・焼きのり
- ・レバーなど

- ・おにぎり
- ・みたらし団子
- ・ライ麦パンサンドイッチ

コンビニで手軽に調達!

2 筋疲労

対応食材

- ・肉、魚、卵などたんぱく質食品全般
- ・鶏むね肉
- ・ブロッコリー
- ・トマト
- ・アボカド

- ・サラダチキン
- ・魚肉ソーセージ
- ・トマトジュース

コンビニで手軽に調達!

3 ストレス疲労

対応食材

- ・いちご
- ・キウイ
- ・レモン
- ・牛乳
- ・ヨーグルト
- ・納豆
- ・みそ
- ・発芽玄米
- ・トマト
- ・お茶

- ・ヨーグルト
- ・牛乳
- ・インスタント味噌汁
- ・抹茶入り緑茶

コンビニで手軽に調達!

エネルギーになる炭水化物(糖質)を多く含む食材は、ごはん、パン、麺などの穀類がありますが、特に胚芽精米やライ麦パンなど、精製されていない穀類は、炭水化物をエネルギーに変えるために必要なビタミンB₁や貧血予防のための鉄も多く含んでいるため一石二鳥です。

また、もちはごはんよりも吸収の速いでんぶんからできており、練習や試合後、素早くエネルギーを回復したいときに向いています。もちろん白玉団子やあんかけなどに使

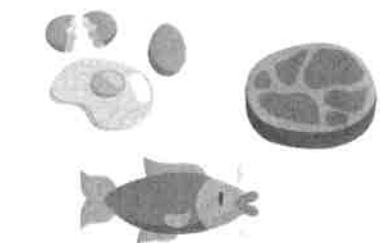
われる片栗粉も吸収が速いでんぶんでできています。

豚肉にはビタミンB₁が多く含まれています。豚肉加工品であるハムやウインナーにも多く含まれているため、炭水化物とセットで摂ると良いでしょう。レバーにもビタミンB₁、鉄が多く含まれています。また、おにぎりやお手軽の焼きのりにもビタミンB₁や鉄が多く含まれていますが、食物繊維が多く、消化に時間がかかるため、試合前に食べるときには摂りすぎに気をつけましょう。

肉、魚、卵など動物性のたんぱく質食品は筋肉の材料になるため、筋肉の疲労回復に役立ちます。したがって、運動後、できるだけ早く摂ると良いでしょう。また、鶏むね肉には、たんぱく質を筋肉にするために必要なビタミンB₆だけでなく、イミダペプチドという疲労回復を助ける成分が含まれています。イミダペプチドはまぐろやかつおなどの魚にも多く含まれています。

またブロッコリーには、抗酸化作用のあるポリフェノールの一種であるスルフォラファンが多く含まれて

います。トマトには、リコピンという抗酸化成分が含まれています。アボカドにはビタミンEが多く含まれており、体内の酸化防止に役立ちます。



新鮮な果物や野菜はビタミンCが多く、いちごやキウイなど酸味のある果物は特に多く含まれているので効果的です。

レモンやみかんなど柑橘類はビタミンCが多く含まれています。また、レモンの皮に含まれる香り成分のリモネンはリラックス効果があるといわれています。お茶の成分であるテアニンもリモネン同様、リラ

ックス効果があります。お茶に含まれるテアニンは熱いお湯よりも低めの温度で抽出されやすくなります。アミノ酸の一種であるトリプトファンは、乳製品や大豆製品に多く含まれます。また、GABAは発芽玄米やトマト、きのこ類に多く含まれており、睡眠の質の改善にも役立つといわれています。

PROFILE

しばさき・まさき◎愛知県生まれ。中京女子大大学院健康科学研究科修了。管理栄養士、健康運動指導士。愛知県内のスイミングスクールや国体に向けた合宿での栄養サポートを経て、2008年より文部科学省委託事業チーム「ニッポン」マルチサポート事業のスタッフとして競泳日本代表のサポートに従事しロンドン五輪にも帯同。現在はフリーで活動中。中学までは水泳部に所属し、水泳指導の経験もある。愛知水泳連盟医科学委員

3 睡眠

さて、特集の最後を飾るのは『睡眠』。これまで、スイマガでは一度も扱ってこなかったテーマですが、選手にとっては重要な要素のひとつであることは間違ひありません。でも、寝ている間に何かをするのは不可能…。ということで、疲労をとるための良い睡眠につながる「寝る前の心がけ」を紹介していただきます。

講師◎葛西隆敏 [順天堂大学医学部 循環器内科]

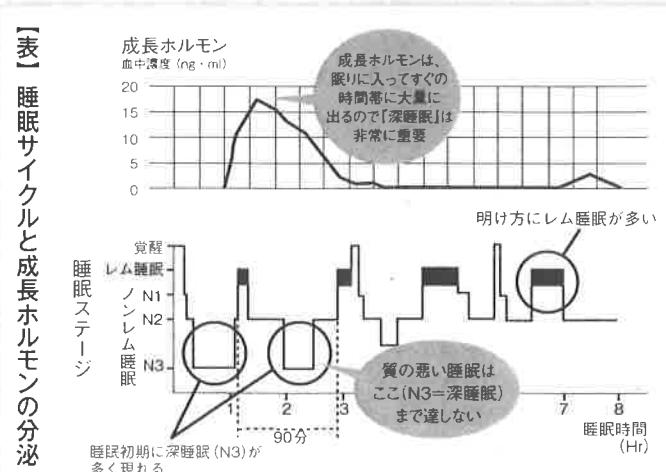
睡眠のメカニズム

睡眠と聞いて、「レム睡眠」とか「ノンレム睡眠」という言葉を耳にしたことがある、という人もいることでしょう。レム睡眠は主に身体を休めるための睡眠、ノンレム睡眠は主に頭を休めるための睡眠とされています。

睡眠は、ノンレム睡眠とレム睡眠の繰り返しで構成されており、1サイクルは約1時間半。これを一晩で何回も繰り返しています。

右表のように、寝はじめはノンレム睡眠から入り、この「ノンレム睡眠」はさらに3段階(N1～N3)に分かれています。一番深いN3が多くとも眠りの深い「深睡眠」(「徐波睡眠」とも呼ばれている)です。この深睡眠はストレスの除去と身体疲労の回復にも重要とされており、一晩のうち前半のサイクルで多く出現します。

また、この深睡眠のときに成長ホルモンがもっとも分泌されるので、



成長を促す働きが活発になります。したがって、深睡眠の多い最初のサイクルの睡眠が重要となります。

ここまで知れば、何としても深睡眠を獲得したくなりますよね? 深睡眠を獲得するには、寝る前にあることを心がけることで、その確率

をグッと高めることができます。そのポイントを右に示しますので、ぜひ実践してみてください。これは決して難しいことではありません。ですから、日々の習慣として行なっていけるように努めていただければと思います。

教えて!
葛西先生

睡眠なんでも

Q and A

Q 平日に睡眠が足りていない場合、休日に“寝貯め”をしてもいいですか。

A 「悪くはないけれど…」という前提でお答えします。寝貯めにより睡眠不足は多少、解消しますが、その解消は半分くらいの貢献度しかなく、むしろマイナス要素の方が大きくなります。それは、睡眠のリズムを崩すことにより深睡眠が得づらくなってしまうこと。休日に寝まで寝た場合、その日の夜9時や10時にちゃんと寝られるのであれば良いのですが、そうでない場合は寝貯めじたが逆効果となってしまいます。

Q 歯ぎしりがすごいのですが、マウスピースなどをして寝た方が良いですか。

A 歯ぎしりは睡眠を妨げるひとつの原因ではありますが、歯ぎしりの大きな原因是日々のストレスだとされています。したがってマウスピースを付けることで違和感がない場合は、その状態で寝るよりは、歯ぎしりの原因そのものであるストレスを取り除くことが重要です。

Q いびきがひどいと言われます。いびきは深い睡眠を妨げるのでしょうか。またその対策はありますか。

A いびきは、睡眠時の無呼吸の症状である可能性もあるので、ひどい場合は要注意です。ただし小学生のころは扁桃腺が大きいため多少いびきが大きても問題ないことが多いです。ただし女性ホルモンの影響と扁桃腺が自然に小さくなりいびきも収まっている中学生・高校の女子でいびきがひどい人は、鼻に問題がある可能性があるかもしれませんので耳鼻科の受診をお勧めします。

また、いびきのほかに、普段から「口呼吸」をしている人の問題で口呼吸となり睡眠を妨げることもあるので、一度、耳鼻科で診てもらってください。

睡眠時間の目安

小学生→9～10時間

*一般的には9～12時間が望ましい

中学生・高校生→8～9時間

*一般的には8～10時間が望ましい

4つの心がけ

目標はすべて寝る2時間前!

2時間は無理でも1時間半を目標に

1

食事を済ませる

食べたものが十分に消化された状態にすることが重要。食べた直後は自律神経のバランスが寝るほうに傾いていないので、夕食から寝るまで2時間あけるのがベスト。

2

お風呂を済ませる

「温まってすぐに寝なさい!」は寝つきが良くないのでNG。入浴により体温が上がりるので、それが下がっていく過程で睡眠に入るのがベスト(入浴後2時間がその目安)。

3

スマホやタブレットをやめる

近い距離で光が入ってくるスマホやタブレットは絶対にNG。スマホやタブレットが放つ光は脳を覚醒させるため、深睡眠を妨げる大きな原因となる。テレビはOKなわけではないが、離れた距離であれば良い。

4

水泳のことは考えない

寝る直前まで水泳のことをあれこれ考えていると、それがストレスとなり深睡眠を妨げてしまう。

Q 『寝る子は育つ』は本当ですか。

A

間違いではないのですが、厳密にいうと、「深く眠る子は育つ」が正解です。

冒頭のグラフを見ていたいともわかるように、深睡眠の状態のときに成長ホルモンがもっと多く分泌されます。ですから、ただ『寝る』のではなく、「深い睡眠」を獲得することが成長にもつながります。

Q 疲れがよくとれる入浴の適温はありますか。

A

42度が良いという研究データが出ています。小学生にとってはちょうど熱い温度かもしれないが、長い時間入る必要はないので、5～10分くらいを目安に42度で入ってみてください。

また、水泳の選手は練習後のシャワーのみで済ませてしまうこともあるかと思いますが、やはりお風呂に浸かることをお勧めします。

Q 寝る姿勢で疲れのとれ具合は変わりますか。

A

データ的な裏付けはありませんが、うつ伏せは寝苦しさを感じる人もいるので仰向けや横向きをお勧めします。

ただ、寝る姿勢より重要なのは、十分に寝返りのうてるスペースがあることです。適度な寝返りは疲労感を軽減させるので、ゆったりとした寝床を確保してください。

PROFILE

かさい・たかし◎1974年3月23日生まれ、北海道出身。1998年、順天堂大学医学部卒。専門は心不全や冠動脈疾患等の循環器疾患と睡眠時無呼吸症など。現在は順天堂大学医学部附属順天堂医院循環器内科のほか、虎の門病院睡眠センターなどで臨床医を務める。また順天堂大学女性スポーツ研究センターの研究員も務め、アスリートの睡眠に関する研究を行ないセミナーの講師なども務めている。学生時代に取り組んでいたスポーツはバスケットボール。